

フランスに行く前も、行った後も、なぜフランスを選んだのかという質問をされたことが何度もあります。私自身フランスに行く前には、フランスの農業や、ヨーロッパの国際的な管理栄養士になるための食生活を体感するためと言っていました。それは心から思っていたことですが、なぜフランスじゃなくってはいけなかったのかと言う確信を持つことができておらず曖昧な気持ちでした。ですが、今はフランスが好きだからだと胸を張って言いたいと思えるくらい今回の留学は勉強のみならず、様々な学びを得ることができました。なぜそう思ったかという今回の留学を経た私の経験について記載させていただきたいと思います。

フランス人のイメージというと、ストライキが多い・フランス語しか話さない・時間にルーズというようなよくないイメージを持つ人が多いように思います。それらのイメージは半分本当で半分嘘だと思いました。私のであったフランス人はみんなフランス人であることに誇りを持っている気がしました。自分たちの食文化、建物、言語など、特に食事とワインに関してはフランスが一番だということをよく言っていました。このように彼らは自分たちの築き上げてきたものに対して知識と誇りを持っていることが感じられました。特に言語に関しては、フランス語しか話さない人はたくさんいました。もちろん私たちの世代になると英語を話せる子はたくさんいましたし、英語で説明しようとしてくれる人もいました。しかしながら、フランス語しか話さない人に対して私は失礼だなんて思うことはありませんでした。なぜならほとんどの人が私たちをフランス人として接してくれて、あいつはアジア人だと差別されずに、気軽に話しかけてくれるからです。フランスにはたくさんの人種が住んでいるため、最初に相手を外国人と判断するのではなく、1人の人として接してもらっている感じがしてとても嬉しかったです。私の出会ったフランス人たちはオープンマインドの人が多く、街やイベントで出会うと話しかけてくれることが多いように感じました。私のフランス家族（Lyon international と言って、留学生とフランスの家族をマッチングさせてくれる組織）によって出会ったたくさんの友人もフランス語とたまに英語で話していました。最初はフランス語が全然分からず、悔しかったのですが、その悔しさをバネに一生懸命勉強しました。その結果少し話せるようになると、相手のことや自分のことをたくさん話せるようになり、みんなとの距離がグッと近づきました。それは日本も同じだと感じました。ストライキに関しては、幸い出くわすことはなかったのですが、フランスは本当に多いということを聞きました。でもそれは多くの人が容認しているように思いました。ストライキといっても、よく見たのは事前にストライキの予定を張り紙に出して行っていました。消費

者からすると、事前にいつ休みなのかがわかっていたためそんなにひどく大変な思いをすることはないのかと思います。それよりもフランスでは自分や誰かが幸せでないことの方が問題で、だからストライキやデモが頻発するのだと思います。自分たちの意見をハッキリと言い、相手に自分の意見を伝えることは今回の留学を経て見にしてみte感じました。

フランスは時間が流れるのがとてもゆっくりです。川沿いに座ってお話したり、本を読んだり、何もしない人もいます。でもみんなそれぞれの時間を楽しんで気ままに生きているところが印象的でした。そんな時間を過ごして見たいという人はフランスへの留学を心よりお勧めします。もちろん嫌な人もいるし、大変なこともあります。でもそれ以上に気ままに、ありのままに過ごせることは日本と全く違う価値観を知ることができました。この留学は間違いなく私の人生にとって大きな変化をもたらしました。私はまたフランスに絶対行きたいと思います。もっとフランス語が上手になって、フランスのジョークも理解できるようになりたいです。

